

# 遠野風土記

21



市指定有形文化財(工芸品)  
所在地 遠野市立博物館  
所有者 山谷観音

## 山谷観音経筒

小友町山谷にある山谷観音堂の西側には経塚があります。経塚とは、平安時代中期の人々が、仏法が正しく行われなくなる終末の世になったとき、仏の教えが廃れることのないよう経典を地下に保存したところをいいます。経筒は経典を塚に埋めるために作られたもので、未来への願いが込められたものです。

山谷観音経筒は、明治時代の初めごろ、堂を管理する菊池亀蔵氏により発掘されました。銅板金製で総高十二センチ、上蓋部幅八センチ、台幅七・四センチの大きさで、一五八四(天正十二年)の銘が刻まれています。身部は六角形で、如来座像が刻まれています。県内では一関市大東町の竜泉寺にある一五五三(天文二十二年)、一五六九(永禄十二年)の経筒とともに貴重なものとされ、中世の信仰を知る上で重要な資料といえます。

現在は、市立博物館常設展示室の絵馬・観音信仰コーナーに展示されていて、いつでも見学することができます。

## ホット ひびいき



中総体ソフトボールの決勝戦。伝統を誇る強豪小友中は今年を最後に廃部とのこと。勝てば県大会、負ければ最後の試合◆結果は七対三で遠野中が優勝。小友中ソフトボール部員は皆、うつむいて涙を流していました◆小友中の皆さん、ソフトボールで培った経験は一生の宝です。そして、遠野中の皆さん、県大会頑張ってきてください。(小森)

人との出会いは、人間の幅を大きくさせてくれるものです◆全国の広報広聴担当者が集う研修会に参加させていただきました。「俺たちは何をすべきか、広報紙で何ができるのか」熱い議論を交わした日々◆帰ってきて久しぶりに体重計に乗ったら、昨年より五キロも増加していました。(馬場)